頑張ってます〝崎浜〟

困難の中、住民手を携え

交流地区や学生からも食料

市街地から離れた地域にある避難所では、中心部よりさらにガソリンや生活用品の調達が難しくなっている。17日現在約30人の地区住民が避難生活を送る大船渡市三陸町越喜来の崎浜公民館では、被災者や公益会・婦人会のメンバーが力を合わせて生活。交流の深い地区から物資が届けられるなど、人の心の温かさにも触れている。

花巻の浮田地区から届けられた米や炊飯釜。崎浜の人たちは思いやりに感謝している＝崎浜公民館

同地区でも港付近の道路は通行できず、林道へ迂回しなければ他地域と行き来できなくなっている。折からのガソリン不足のうえ市街地に遠いこともあり、住民は急病人が出るなどした場合に備えて車もほとんど使用していない。

市からの物資が届けられたり、越喜来の避難所本部へ行く以外は〝孤立〟に近い状態にある中、住民はわずかな食料を持ち寄るなどして協力。かかわりの深い人々からの善意も寄せられている。

15日に東京都へ一斉避難した北里大三陸キャンパスの学生は、多くが同地区のアパートなどに居住。地区住民のため自主的に自宅の食料を集め、出発前に避難所へ置いていってくれたという。

また、花巻市東和町にある浮田地区コミュニティ会議の千葉哲世会長も同日、避難者らの安否を気遣い公民館を訪問した。両地区は平成20年から農村・漁村交流事業を実施。互いの地区を訪ね合うなどして友好を育み、先月も東和町で交流セミナーを行ったばかりだった。

千葉会長は30㌔の米2袋やガス炊飯釜などを届け、「農産物なら任せて。必要なものがあればまた届ける」と申し出てくれたといい、交流の〝成果〟が思わぬ状況で実った形だ。

崎浜公益会の遠藤喜隆会長（69）は「人々の心遣いが本当にありがたい。地域に貸しアパートを持つ人は『空いている部屋はあるから、移りたい人がいれば使ってくれ』と声をかけてくれる。自宅にいる人たちも不便をしているので、今後は手分けして集落を回り、必要なものがないか聞いたり、人数確認などしていきたい」と話す。

避難者の世話にあたる同地区婦人会の川畑チトセさん（66）は、「近年は会の人数が減ってきていたけれど、今は会員でない女性らも率先して手伝ってくれている。改めて、住民の絆が深い地域だなと確認できた」と感じ入っている様子だった。

復興望む避難者たち

一時孤立後の広田町

陸前高田

大津波発生直後から一時孤立状態となった、陸前高田市の広田半島。避難所の一つである広田小学校には広田町内で最も多い人数の避難者が生活し、1日も早い復興を待ち望んでいる。

広田半島は、11日の大津波によって小友町の両替地域から唯出地域にかけてが浸水したため、一時孤立。水が引いたのち、がれき撤去などの作業が進められて現在は大型車の行き来も可能となった。

広田小には、被災直後から中央地域の住民らが避難。初日は300人が身を寄せていたが、17日には238人まで減少した。

当初は孤立状態で外部からの情報もほとんどなく、避難者らは自主防災組織を生かして炊き出しなどを展開。食料品は各家庭で備蓄していたものを持ち寄り、水は井戸や山からくんで調達した。電気はなく、一部で発電機を使用しているものの、夜間はろうそくや懐中電灯の明かりが頼りという。

水は依然として井戸などを利用しているが、食料などの救援物資は車の行き来も可能となったことから、運ばれるようになってきた。避難所内の救援物資コーナーには、毛布や衣類、食料品などが寄せられ、ボランティアらが整理やほかの避難所への配分作業に忙しい。

15日からは衛星電話1台が導入され、地域住民らが列をなして親戚や知人と連絡。避難所内には近隣の広田診療所が移動し、初日から診察にあたる。現在も多い。村上せつ子さん（78）は、「心臓、血圧、骨粗しょう症などの薬を飲んでいたが、保険証と一緒に全部津波で流されてしまった。数が多いので薬の名前も把握しておらず、処方してもらえるのかとても不安です」と話す。

また、ここでも「ガソリンがあれば…」という声が多い。佐藤まり子さん（28）は「子ども用の薬もなく、万が一病気になってもガソリンがなくては病院にも行けない。せめて各避難所に1台でも病院搬送用の緊急車両を配置してほしい」と提案する。

さらに、「子ども服の配給もあるが、ズボンやくつなどはサイズが合わず、なかなか見つからない。おもちゃや絵本も少ない。情報もほとんど入ってこないので、現状が分からない。早く仮設住宅の着工を始めるといった〝生き延びてよかった〟と思える希望がほしい」と話していた。

広田小避難所には広田診療所が移動し、避難者らを診療＝広田町

きょうから入浴支援

避難者対象、五葉温泉と夏虫

大船渡市

大船渡市では避難生活を送る市民を対象に、18日から入浴支援を行う。日頃市町の五葉温泉と三陸町越喜来の遊・YOU・亭夏虫で日中時間に対応し、市が手配したバスで各避難所から移動する。

市内では8000人以上が避難所生活を送り、食料や毛布、衛生用品、薬品などの提供はあるものの、入浴まではほど遠い状態。11日の被災以降、体を満足に洗えない状況が続いている。

市内では電気が復旧し始めた中、市では比較的被害規模が小さい入浴施設に協力を依頼。各施設とも点検を終えてメドがついたことから、18日以降入浴支援に応じることを決めた。

五葉温泉では午前10時から午後6時まで実施。1回当たりの利用者数は男女20人ずつで、1日最大で480人可能。

夏虫では午前11時から午後5時まで実施。1回当たりの利用者数は男女5人ずつで、1日最大90人が可能となっている。

いずれも入浴時間は1回・1人当たり40分。利用料金は無料で、避難所から両入浴施設までの移動は、市が手配したバスを利用する。18日は大船渡町の富沢2区公民館と、大船渡中学校で過ごす住民が利用予定となっている。

五葉温泉では被災以降停電が続いていたが、16日午後から鷹生ダムの水力発電から電気が送られている。ボイラーの燃料となる廃タイヤや重油も、備蓄があるという。17日は避難者に心休まるひと時を過ごしてもらおうと、従業員らが浴室や休憩室などを念入りに清掃していた。

きょうから避難生活中の市民が利用できる五葉温泉＝日頃市町

運営する五葉地域振興の藤原重信社長は「施設として本格的な営業にはまだ不安もあるが、避難されている方々の思いを優先した」と話す。今後3日間ほど避難者向けに運営し、異常がなければ午後6時以降は一般住民にも開放したい意向を示している。

学生ら東京へ退避

北里大海洋生命科学部

大船渡市三陸町越喜来にある北里大学海洋生命科学部（緒方武比古学部長）の学生および教員ら計249人が、15日にバスで東京へ向かい、それぞれの実家などへ一時帰宅したことが分かった。

東日本大震災により、同学部学生と教職員、その家族は11日から学内へ避難。職員が衛星電話を使って同大本部と連絡を取り合い、「校舎では長期にわたる避難生活は送れず、安全も確保できない」として13日夜に学生らの退避を決定したという。

移動手段のバスは本部が手配。第1陣として164人が3台に分乗し、15日午前2時30分ごろ出発。同日午後8時30分には第2陣の85人が発った。第1陣は同日夕方、第2陣は16日朝に東京へ到着し、同大の柴忠義学長が涙ながらに出迎えたという。

途中、バスは福島県を通過したため、念のために同大学病院で放射能検査が行われたが、全員異常なしと確認。学生たちは都内のホテルに宿泊し、迎えにきた家族らと帰宅した。

一方、実家が宮城県にある学生2人は家族と連絡がついておらず、安否確認の取れていない学生も。

三陸キャンパスには現在、緒方学部長を含め51人の教職員が残留しているが、「今後の予定は全くの白紙」という。

津波発生当時、千葉県へ出張していた山口雄一郎講師（38）は、16日に復路のバスで同学部へ戻ったとのことで「数日何もできずもどかしい思いをした。周辺の風景がすっかり変わり、どこがどこだったか分からなくなってしまった」と驚いた表情を見せていた。

盗難、暴行に注意

各避難所で呼びかけ

大船渡市

現在も8000人以上が避難生活を送る大船渡市。市では各避難所で盗難や暴行、いたずらなどが発生しているとして、注意を呼びかけている。

各避難所では住民ごとの仕切りなどはなく、毛布を敷いた上だけで身を寄せ合う家族が多い。

電気の復旧が遅れているほか、燃料確保のため自家発電による照明も必要最小限に抑えられ、防犯体制の充実までは行き届いていない。

市では防犯対策として▽身の回りのものをしっかり管理する▽とくに暗い時など、できるだけ複数で行動を▽「気をつけて」「大丈夫」など、周囲の人々への安全の声がけ――を挙げる。

その上で「あやしい人がいたら大人や本部の職員らに知らせるほか、大声で助けを求めてほしい。みんなで協力して、安全な避難生活を過ごしてほしい」とし、注意を喚起している。

21～23日ごみ収集

大船渡と住田、可燃のみ

大船渡市猪川町の大船渡地区クリーンセンターでは、21日（月）から3日間、同市と住田町内にある各ごみステーションで定められた曜日通りに、燃えるごみの収集を行う。

24日（木）以降の収集日は未定。道路や被災状況によっては、収集できない地点もある。

燃えないごみ、資源古紙は、当面収集の予定はない。クリーンセンターへの一般持ち込みも当面受け付けない。

【お詫び】17日付4面、炊き出し作業の記事中、「自衛隊員のための炊き出しも行っており」の部分を削除します。訂正してお詫びします。

ガソリンきょう販売

午後1時から一般にも

大船渡市

大船渡市盛町、猪川町、立根町などの国道45号沿いにある各ガソリンスタンドで、18日午後1時から一般車両向けにもレギュラーガソリンの販売を行う。各店舗合わせて、2000台分ほどは確保できているという。

一般車両1台当たり3000円分（約19㍑分）の限定販売で、軽油（約24㍑分）にも対応する。多くの住民に安定的な供給を行うため、残量が半分以上ある場合はできるだけ遠慮するよう呼びかけている。

市災害対策本部では「安定的に供給できる見込みはまだ立っていない。今後は災害復旧車両に回すよう、市民の皆さんにご協力をお願いしたい」と話している。

生活関連情報

ライフライン

【電気】
◇大船渡市＝大船渡、盛、猪川、赤崎、立根、日頃市各町の一部で復旧。
◇陸前高田市＝高田、竹駒、横田各町の一部で復旧。

【水道】
◇大船渡市＝上水道は市内全域断水。給水車が避難所などを巡回中。簡易水道は越喜来、崎浜、吉浜、根白の各簡水のごく一部が使用可能。
◇陸前高田市＝市内全域断水。給水活動中。

【LPガス】
◇大船渡市＝家庭用LPガスがなくなったり、ガス漏れ等があった場合は販売店へ。連絡がつかない場合は大船渡町上平のLPガス災害対策本部（℡27・1635、気仙郡漁連内）に連絡を。

【下水道】
◇大船渡市＝公共下水道、漁業集落排水とも使用不能。し尿等のくみ取りは当分の間、緊急を要する避難所だけ。
◇陸前高田市＝浄化センター機能停止。くみ取り等の対応を検討中。

【電話】
◇大船渡市＝市内全域不通。被災者用の発信専用電話（24時間可能）を県大船渡地区合同庁舎に設置。携帯電話はauが盛町の一部で、ドコモが日頃市町の一部で通話可能。
◇陸前高田市＝市内全域不通。被災者用の発信専用電話を長部コミセン、高田一中、広田小、華蔵寺、米崎小に設置。一部地域でauが通話可能に。
◇住田町＝町内全域不通。農林会館に安否確認用の衛星無料公衆電話を設置。

【国道】
◇三陸縦貫自動車道、国道45号（釜石市鵜住居～上鹿折）、国道107号・397号（大船渡～）、国道343号（通岡IC～広域道路～住田・一関）は通行可能。
◇主要な県道はおおむね通行可能。

ごみ収集

◇大船渡市、住田町＝燃えるごみは21、22、23日に収集予定。各ステーションの収集曜日どおりの通常収集（ステーションによっては道路状況により収集できない場合もある）。24日以降の収集日は未定。燃えないごみ・古紙は当面収集予定なし。クリーンセンターへの一般持ち込みは当面、受け付けない。

公共交通

◇JR大船渡線、三陸鉄道、岩手県交通＝運行再開は未定。
◇住田町コミュニティバス＝上有住～川口間、八日町～遠野駅間で通常運行。

学校

◇大船渡市▽小・中学校＝当面休校。
▽市立保育所＝当面休園。
▽大船渡高校＝始業式は4月22日、入学式は4月27日。部活はなし。
◇陸前高田市▽小・中学校＝31日まで春休み（学校ごとに登校指示あり）。卒業式は中止。
▽保育所（園）＝当面休園。
◇住田町▽世田米小・有住小＝18日に修了式と卒業式。
▽世田米中・有住中＝18日は午前授業、19日は修了式と卒業式。各小・中学校とも卒業式は児童・生徒と教職員のみで行う。
▽町内保育園＝電話が不通の間、休園。緊急時の受け入れは可能。19日の卒園式は中止。
▽住田高校＝18日は休校。22日は登校できる状況の生徒は登校。登校できない場合は自宅待機。
◇県立高校の合格発表は22日に延期。高田高の発表は大船渡高で。再募集期間は23～31日。受験日は4月4日、合格発表は4月6日。

医療機関

◇大船渡市▽県立大船渡病院＝救急患者の診療と常用している薬の臨時処方。受け付けは午前8時30分から。
▽菊池内科医院＝午前8時～午後5時30分。通常診療。
▽岩渕内科＝午前9時～正午、午後2時～4時。軽症者の診療と薬の処方中心で、院内処方にも対応。
▽えんどう内科クリニック＝午前9時～午後4時。受け付けは午後3時まで。軽症者の診療と薬の処方中心。
▽いとう耳鼻咽喉科＝午前9時～午後3～4時。
▽及川皮膚科クリニック＝正午～午後2時30分。
▽鳥羽整形外科医院＝午前9時～午後4時。再診者の薬の処方中心。
▽山浦医院＝午前9時30分～午後4時。薬の処方中心。
▽いとう耳鼻咽喉科＝午前9時～午後3～4時。
▽及川皮膚科クリニック＝正午～午後2時30分。
▽鳥羽整形外科医院＝午前9時～午後4時。再診者の薬の処方中心。
▽山浦医院＝午前9時30分～午後4時。薬の処方中心。
▽越喜来診療所＝旧花菱縫製三陸工場で診療。24時間対応。
▽医療チーム救護所＝末崎ふるさとセンター、赤崎漁村センター、蛸ノ浦漁村厚生施設に設置。
▽気仙歯科医師会＝県立大船渡病院救命救急センター、大船渡町の菊池歯科クリニックでそれぞれ午前10時～正午、午後2時～4時まで診療。救急診療のみ対応。
◇陸前高田市▽県立高田病院＝米崎地区コミセンで一般診療。
▽日赤救護所＝高田一中に設置。
▽広田診療所＝広田小で診療。
◇住田町・住田地域診療センター＝午前のみ。外来可。
▽桜井医院＝午前のみ。通常外来。
▽上代医院＝午前のみ。通常外来。

小売店

◇大船渡市▽マイヤ大船渡インター店＝午前8時～午後6時まで営業し、米、卵、袋ラーメンなどが数量限定販売。1家族総数15点まで。
▽猪川町の薬王堂＝午前10時から15人ずつ入店させ、10分間で1人10品のみ販売。
▽大船渡町のローソン永沢西店＝午前10時～正午まで営業。水、お茶、お菓子、たばこなどを1人10点のみ販売。
▽立根町のアメリカヤ109＝午前9時～午後5時まで営業し、衣料品の割引販売。携帯電話の充電も可能。
▽立根町のドキドキ大船渡店＝午前11時から衣服・靴など一部のみ営業、商品がなくなり次第終了。
▽立根町の弐萬圓堂＝レンズ在庫分のみ対応。眼鏡の調整も。
▽カラオケ招福亭裏と猪川町・クボタに隣接するコイン精米所は営業。
◇陸前高田市▽マイヤ＝米崎小学校で水、ラーメンを1人2点まで販売。18日まで。

金融機関

◇JAおおふなと＝営業時間は午前9時～午後3時。盛、日頃市、猪川、吉浜、綾里、横田（臨時）、世田米、有住の各支店が営業。1人つき10万円程度まで。
◇岩手銀行盛支店・世田米支店＝営業時間は午前9時～午後3時。払い戻し（本人に限る）のみで、普通預金1日1人1回10万円まで。通帳またはキャッシュカードと本人を確認できる公的書類を持参のこと。ATMは使用不可。
◇ゆうちょ銀行大船渡猪川局、住田局＝営業時間は午前9時から午後4時。払い戻しのみ通帳残高で20万円まで。通帳、本人確認書類が必要。
◇JFバンク窓口＝大船渡市大船渡町の気仙郡漁連2階と末崎町平林の平野工務店、赤崎町の漁村センターと漁村厚生施設内に設置。郡漁連は午前10時から午後2時、他は午前10時から正午。気仙管内の利用者を対象とし、10万円まで払い戻し可能。本人確認書類が必要。

生活資金

◇大船渡市▽10万円までの貸し付けを受け付け。相談は市役所玄関前の市社会福祉協議会窓口まで。貸し付けは即日ではない。